

ハツ矢の獅子舞

◇歴史

ハツ矢町の獅子舞は、明治21年に金沢の地黄煎町（現在の金沢市泉が丘2丁目）にあった町田道場に入門したハツ矢町内の若い衆によって、明治22年に初めて披露された棒振りの形が伝承されたものである。これは、半兵衛流棒術を取り入れた「郷土芸能の加賀獅子」であり、豪華な獅子頭と勇壮な棒振りで構成されていることに特徴がある。

◇獅子頭

明治22年、新田町の増田清三郎氏が町会議員当選を記念し、ハツ矢町及び新田町に獅子頭を寄贈した。以後、大正11年と昭和57年に町民の手によって新調され、現在に至っている。



◇特徴

1) 棒振り

半兵衛流を忠実に伝承し、渡りトンボの袴の伝統を守り、動作は単純で気合いを込めた迫力と若者らしい凜々しさを表現している。

2) 獅子

獅子頭を持ち上げ、頭の舞をする人を懸帯前と称し、11人で構成している。その頭の舞は、古来の日本舞踊を基本に、畳半畳の中で上・中・下段、左・中・右に舞わせるもので、特に棒振りをにらむ獅子の目線と上段の構えには迫力がある。



3) お囃子

辰巳町の芸姑さんから伝を受け、町民の手によって生演奏している。笛・太鼓・三味線・唄で構成されていて、本唄と戻り囃子がある。特に本唄は、長唄「元禄花見踊り」の曲を基本にし、歌詞はハツ矢獅子固有のものである。（太鼓は、伝統的に小学校6年生の女子生徒によって継承されている。）



文章は、「加賀・松任 ハツ矢獅子 五十年のあゆみ」（ハツ矢獅子舞保存会）から引用しました。

写真は、平成28年7月に行われた出前授業のときのものです。